

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第 53 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2025 年 6 月 25 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分

2. 場所： Webex を使用しての Web 会議

3. 出席者 （順不同、敬称略）

（出席委員）高橋主査、相澤副主査、田村幹事、尾崎、中島、見付、菅原、鈴木、宝珍、新崎、駒月、  
中田、中林、原賀、向原、見上、吉岡  
（以上、17 名）

（欠席委員）泉田、伴場、三宅（以上、3 名）

（出席常時参加者）副島、宇田、野田、古田、宮田、河内山、本山、柏木、松居、眞壁、脇（以上、  
11 名）

（欠席常時参加者）鈴木、中野、林（以上、3 名）

（オブザーバー）酒井、佐藤（由）、佐藤（玉）、澁谷、廣瀬、金丸、奥出（以上、常時参加者候補）

4. 配付資料

F10Ph2SC53-0\_第 53 回分科会\_議事次第

F10Ph2SC53-1\_人事について

F10Ph2SC53-2\_第 52 回 LLW 放射能評価分科会議事録案

F10Ph2SC53-3\_L1 放射能標準改定の検討及び原案作成状況

F10Ph2SC53-4\_L1 放射能評価標準改定素案検討作業会での改定素案作成の進め方

F10Ph2SC53-5\_L1 放射能評価標準改定素案検討作業会登録メンバー

（参考資料）2025 年度倫理教育資料の利用について

5. 議事

（1）出席者／資料の確認

会合開始時点で、委員 20 名のうち 17 名が出席しており、定足数(14 名以上)を満足している旨の報告が幹事よりあった。また、配布資料の確認を行った。

（2）人事について（審議）

幹事より、F10Ph2SC53-1 に基づき、1 名の委員退任、7 名の常時参加者登録、2 名の常時参加者解除の報告があり了承された。

（3）前回議事録案の確認（審議）

前回分科会の議事録案（配布資料 F10Ph2SC53-2）について、事前送付時のコメントはすべて反映済である旨幹事より説明があった。本分科会においても、コメントなく承認された。

#### (4) L1 放射能標準改定の検討及び原案作成状況（報告）

担当委員より、F10Ph2SC53-3 に基づき検討状況の報告があった。前回分科会での議論を踏まえた委員からのコメント反映結果について報告があった。また、新規附属書 P のコメント反映箇所、新規附属書 Q の概要、附属書 J の修正点について担当委員より報告があった。今後、記載内容について検討を継続する。

（Q）新規附属書 P、Q については、技術評価時に学会から回答した審査済みの内容で解釈等を示したものが大部分で、新知見として新たに追加した主な審議対象となるものは少ないという理解で良いか。

（A）認識のとおりであり、修正の大部分は、利用者の理解の助けとなるように、技術評価済の説明資料の内容を新たに追加したものである。今回の配布資料 F10Ph2SC53-4 で主な審議対象を整理している。

（C）技術評価で回答したものを全て取り込むのではなく、標準利用者である事業者の視点から見ても使いやすいものを指向すべき。関係者が標準的に使える内容とする必要がある。

（C）現行案では余分なものが記載されているかもしれない。よく中身を確認して必要なら階層化も考える必要がある。

（C）必ず守るべき内容と例示しているものをはっきり区別しておく必要がある。事業者としてもチェックしておく。

（C）附属書 J の改定版について。序章の記載は「入力条件の作成方法の違いで評価方法が 2 種類となる」及び「全てランダムサンプリングで行っていない」ため、正確ではないので修正が必要。

（A）確認して見直す。

（Q）図 J. 2 について、1 次フィッティングカーブは正しいか。2 次フィッティングではないか。（※確認したところ 1 次フィッティングでした。片対数グラフのためカーブしているように見えています）

（A）確認する。

（Q）図 J. 4 について。右の縦軸は確率密度変数であるが、実線部の積分が 1 になっていない。正しいか。

（A）念のため確認する。

（Q）表 J. 5 について。中性子条件として何を使ったのか記載が必要ではないか。

（A）記載する。

（C）附属書 J の妥当性確認の記載について。妥当な条件でやれば結果も妥当と言っているが当たり前のこと。妥当性の判断基準となるものを記載すべき。

（A）計算方法は一般的なやり方。ランダムサンプリング方法の妥当性が示せれば区間推定法として妥当性が示せる。加えて、サンプリング片の測定結果が計算範囲内に入っていることで妥当性確認ができる。記載を充実する。

（Q）同じところ、適用性の判断についても相関関係があればよいとしているが、何らかの判断基準が必要ではないか。

（A）最低限の条件として相関関係があればよいとしている。

(C) 附属書 J の放射化計算のところ。ORIGEN に限定するのではなく「放射化計算」に置き換える方がよい。

(C) 今回の議論も踏まえて作業会でしっかり検討してほしい。その結果、大幅な修正もあり得る。

(5) L1 放射能評価標準改定素案検討作業会での改定素案作成の進め方（報告・審議）

当分科会傘下の作業会での改定素案作成の進め方について、F10Ph2SC53-4 に従って担当委員から説明がなされた。8 月から 5 回程度の作業会を開催し、新知見の反映と技術評価指摘事項の取入れについて詳細検討を行う。その後、分科会を開催し標準全体としての整合性等を議論する。

主な質疑は下記のとおり。

(C) 新規附属書 P、Q に多くを取り込んだ場合に他の附属書との整合性が取れなくなる恐れがある。体系的な整理が必要。

(A) 前回の分科会でも同様のコメントをいただいた。その対応として、まずは附属書 P に引用した他の附属書の図表には、引用元を記載した。また、引用された附属書においても、附属書 P に引用されていることを明記し、相互の引用関係を明確化するように作成している。今後とも整合性が取れているかという観点で確認いただきたい。

(6) L1 放射能評価標準改定素案検討作業会登録メンバーの変更

担当委員より、F10Ph2SC53-5 に基づき報告があり中国電力メンバーの変更が承認された。また、今回新たに分科会常時参加者として登録されたメンバーも追加することについて了承された。

(C) 標準は事業者側、規制側も入って広く議論し、関係する専門家が合意したものを多くの関係者が活用できるようにするのが本来の姿。これに向かって進めていきたい。

(7) その他

2025 年度倫理教育の受講について幹事より説明があった。7 月 4 日（金）を目途に受講実績を幹事まで報告することになった。

以 上